

平成27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	スナゴケの栽培による耕作放棄地解消実証実験事業
事業主体 (連絡先)	小谷村 村長 松本久志 0261-82-2588
事業区分	(2) 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,511,043 円 (うち支援金 : 1,208,000 円)

事業内容

「村が元気! 人が元気! おらが主役!」

大地の恵みを活かし誰もが住みたい小谷村

小谷村第5次総合計画の中で、目指す将来像の実現に向けてそれぞれの活動を実施しているが、耕作放棄地の解消は大きな課題の一つとして位置づけられている。

耕作放棄地を利用し、スナゴケを試験的に栽培し、屋上や壁面の緑化材として、その販売まで一連の商品開発を行い、低迷する農林業の活性化に向けた新たな施策として特産品の開発に取り組みたい。



【スナゴケの屋上設置作業】

【目標・ねらい】

- ① 育成管理方法の検証
- ② 事業としての可能性の探究
- ③ 設置後の温度、景観の効果。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・昨年度事業で培養中のスナゴケを継続して管理した。
- ・5月、風害により培養中のスナゴケが吹き飛ばす被害があった。
- ・6月、研修見学会を実施し、関係者及び一般参加含め28名の参加があった。またこの研修で講師から殺菌の指導があり2度実施したが、枯れたスナゴケも発生した。
- ・10月、職員によりコケを収穫し加工業者に引き渡したが、不良品が多く、製品になったのは約半数である。
- ・12月、製品化されたスナゴケを小谷村役場屋上に設置、すでに冬であるため気温データ等は次年度の課題とした。

※自己評価 【 C 】

【理由】

風、菌に弱い部分がありそれを管理できなかった。そのため設置時期が冬になり、高温下での周辺環境の変化が検証ができなかった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・今年度設置したスナゴケをよく管理し、温度、景観などの効果による有効性を検証する。
- ・耕作放棄地の解消としての有効性は確認できたので、今後は需要の開拓を図り新しい農業分野としての開発を進めていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある